

⑤ 活動内容

3月11日～3月22日（最初の2週間）⇒ 授業参加及び授業見学

3月25日～3月28日⇒ 実習

- ・日本語会話Ⅰ（月）山岡：数字の導入 （水）南：日付と助数詞の導入
- ・日本語会話Ⅲ（火）山岡：旅行 （木）南：日韓の違い
- ・日本語Ⅲ（木）山岡・南：オリジナル読解教材による推理ゲーム



5. 授業以外の活動

授業以外の時間は特に拘束される時間がなかったため、学生たちと交流できる時間が多く取れた。学生たちには放課後や休日にいろいろな観光スポットに連れて行ってもらった。また、金曜日は授業がなかったので土日を含めると三連休となった。山岡はこれを利用して韓国人の友人に会うために大邱への1泊旅行へ出かけるなど、観光も充分できた。



6. ホテルと通学

① ホテル：ヴィジョンホテル（往十里駅近く）

最寄り駅から観光地や繁華街へのアクセスがしやすかったため、とても便利であった。部屋は1人ずつであるにも関わらずツインの部屋でとても広かった。ホテル内では無料でWifiが利用できるため、インターネットも支障なく使うことができた。

② ホテルから学校までのアクセス

最寄り駅である「往十里」から地下鉄2号線に乗り、「東大門歴史文化公園」で4号線に乗り換えて「吉音」下車。「吉音」からバスに乗って「国民大学入口」下車。ホテルから大学までは約40分。また、朝早い時間帯は地下鉄もバスも非常に混むため、通学はかなり大変だった。

7. 感想

ソウルには何度か訪れており、交通機関には慣れていたため問題はなかったが、初日は大学の大きさと人の多さに圧倒され、そのうえ、韓国語が未熟であるため、わからない言葉ばかりで、日本語関係の先生方に会うのも一苦労だった。しかし、先生方の対応はとても親切で、初日から授業に参加させてもらうことができた。学生も自己紹介しかしていない私達を放課後すぐに韓国人学生と日本人留学生との交流会に呼んでくれるなど、初日から有意義な1日を過ごすことができた。

地域専門家課程日本語の授業では、先生が文法の説明をほぼ韓国語でしていたため、見学させてもらうことしかできななかったが、言葉がすべてわからなくても、先生の対応の仕方や、学生とのコミュニケーション方法など、学ぶことはたくさんあった。地域専門家日本語会話の授業ではほぼ日本語で授業を進めるので、日本語だけを使い、どうやって生徒にわかりやすく教えているのか、話すスピードは初級中級でどう違うのかなど、初めて日本語教師の授業風景を見学させてもらうことで学ぶことがたくさんあった。

日本では、日本人の学生の前でしか模擬授業を行ったことがなかったため、不安も大きかったが、学生の授業に対する取り組み方も熱心で、私の方も楽しみながら授業をすることができた。授業以外でも、学生たちと関わることは多かったが、みんなとても親切で、困ったことがあるとすぐ手助けしてくれたため、学校生活に不便はほとんどなかった。

日本語教育の勉強を通して、いろんな輪を広めることもできたし、いいことばかりじゃなく、日本語教育のデメリットも少しではあるが認識することができた。簡単なことではないが、日本語はもちろん、韓国語をもっと勉強し、またこういった経験をしたいと強く感じた実習だった。(南)

日本語教授法を学び、実際にその技術を試そうと思っても日本国内ではなかなか機会を得られないのが現状である。そのため、今回の日本語教育プログラムのように支援してもらって海外の日本語教育機関で短期間とはいえ実習できる場を与えられことは本当に有意義な経験であった。

今回のプログラムで生の現場を知り、大学の模擬授業とは全然違う雰囲気味わえたことで、大きな自信を得られた反面、課題も浮き彫りになった。その両方がはっきりと分かったことは今後も日本語教師を目指していく上で貴重な財産となるように思う。

また、韓国では中学校や高校で日本語を選択できるところも多く、語学学校などで個人的に日本語を学ぶケースも多い。そのため、大学1年生で同じクラスにいる学生でもまったくのゼロ初級者から日本語で普通に意志疎通が可能な者までレベル差が非常に大きい。こうしたクラスでの授業体験はほかの国ではなかなかできないことであるように思う。こうした経験ができたという意味でも今回、韓国で実習ができたことはとても有意義であったといえるだろう。(山岡)